



みやまえ Miyamae

滑川町立宮前小学校 学校だより

1月号 令和 2年 1月 8日

電話 0493-56-2204 FAX 0493-56-2065

「笑顔エネルギー」を生み出すために

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

2学期に寺山聡太郎さんが「こんなトラックあったらいいな 児童絵画作品コンクール」で素敵な絵を出品してくれました。

「笑顔エネルギーで走るアミューズメントトラック」という作品です。私は、この宮前小学校を「みんなが笑顔の学校」にしたいと思っていますので、「笑顔エネルギーで走る」学校になったら素敵だなと思います。では、笑顔エネルギーはどうしたら生み出せるのでしょうか。そのヒントになる作文を紹介したいなと思います。「勇気を持つこと」という題の人権作文です。



長い夏休みのある日、私はいとこたちにさそわれて、電車で出かけることになりました。いとこは長い休みにしか会えないのでとても楽しかったことを覚えています。駅は何回か使ったことがあったのでいつも通りきっぷを買い電車を待っていました。しばらくすると電車がきたので、私たちは電車に乗りこみました。車内は、いつもよりこんでいて空いてる席がみあたりません。しかたがないので立っていることにしました。席がうまっているだけで、立っている人はほとんどいません。その中に一人だけ、つえをついておろおろしているおばあさんがいました。その方は、こしがわるいらしく歩くのがやっとという感じです。よく見るとおばあさんが立っている前の席に高校生がすわっていました。高校生たちは、友達と話したり、スマホを見たりして、おばあさんを気にする様子はありません。おばあさんはとても困っています。助けたいけど助けられない。私は、そんな状態でした。なぜなら、相手は年上の高校生です。話しかけるのがとてもこわくて、何もせずにただ見ているだけでした。それがずっと続き、結局おばあさんは、電車をおりてしまいました。

私は、後悔しています。たった一言、たった一步をふみだすだけでおばあさんの助けになれたかもしれない。なのに私は、自分のことを優先して考えてしまいました。このことをきっかけに私はあることを学びました。それは、勇気をもって挑戦することです。自分に自信を持つこと。何事にも挑戦すること。それが本当の勇気です。（「勇気を持つこと」(滑川町人権作文より)

この作文を読んだ時に、毎日新聞の編集委員の元村有希子さんの「人助け、しますか？」という新聞記事を思い出しました。

胸にちくりと刺さる記憶がある。10年ほど前、日曜の夜、私は、電車に乗っていた。出張帰りで疲れていた。発車を待っていた時、スーツの男性がホームで倒れるのが見えた。

酔客かと思ったが、苦しんでいるようにも見える。降りて助けようか、ためらった瞬間にドアが閉まった。ホームに居合わせた若い女性が駆け寄る。介抱の様子を窓越しに見ながら、私は、電車に乗り続けた。

男性は無事だったろうか。居心地の悪さとともにあの光景を思い出す。時間を巻き戻すことができれば、私は電車に乗っている自分に「助けないの？」と言うだろう。（2019年11月9日 毎日新聞）

人権作文を書ってくれたお友達、元村有希子さんは、行動を起こさなかった自分に対する違和感、気持ち悪さがあったのでしょね。その気持ち悪さを文章で表現することで自分の気持ちを整理して、二度と同じ後悔をしないためのキーワードを紡ぎだしたのでしょうか。それが「勇気を持つこと」であり、「助けないの？」だったのではないのでしょうか。

宮前小の皆さんが、人権作文を書ってくれたお友達や元村さんのような考え方をすることで、学校いっぱいの笑顔エネルギーが生まれると思い、お二人のことを紹介しました。

「3学期始業式のことば」より